

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)	博物館 電話042-750-8030 (直通)		
開催日時	令和6年2月2日(金) 午後1時30分～3時30分		
開催場所	博物館 1階 小会議室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	6人(佐々木館長、外5人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	(1) 会長及び副会長の選出 (2) 相模原市立博物館協議会の概要、活動内容について (3) 相模原市立博物館活動評価書について (4) 今後の予定について (5) その他		

議 事 の 要 旨

(1) 会長及び副会長の選出について

会長及び副会長を、委員の互選により以下のとおり選出した。

会 長：岩野委員

副会長：吉川委員

(2) 相模原市立博物館協議会の概要、活動内容について、事務局より説明を行った。

(岩野委員) ただいま、概要の説明をしていただいたわけですが、これについて、委員の皆様から何か聞きたいこと、あるいは質問等ありましたら、遠慮なくお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

おおよそ、前期までやっていただいた方が多いかと思うので、そこは把握されている部分だろうとは思っていますが、今期から新たに委員になっている方もいらっしゃいますので、もし何か今の説明でわからないこと、あるいは疑問だったり、何かありましたら、遠慮なくお願いしたいと思います。関委員いかがですか。

(関委員) 評価というのが、どういうふうにするのかがまだ掴めてないので、ちょっと何とも。

(岩野委員) 大谷委員、いかがですか。何か感想でも結構です。

(大谷委員) 関委員と一緒に、評価をどうするのか、まだまだわからない部分が多いので。評価表を先ほど見させていただいて、どうするのだろう、と思って見ていました。

(岩野委員) 先ほど事務局の方から説明があったのですが、最初は3年度分、それが2年度分になり、今は単年度評価というふうになっています。そういう点では、日程的にはちょっとハードワークだろうと思います。ただ、評価の内容そのものについては、いつやってもちゃんとしっかりと見るという点では、単年度だろうが3年分だろうが、変わらないかもしれない。

(岩野委員) 何かございますか。

(岩野委員) 特段ないようでしたら、次の議題に移らさせていただき、議題の3、相模原市立博物館活動評価書について、事務局から説明をお願いします。

(3) 相模原市立博物館活動評価書について、事務局より説明を行った。

(岩野委員) ただいま、事務局の方から、活動評価について、ということで、説明があったわけですが、この資料2を見ていただいて、これについて、何かご意見、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

(吉川委員) 令和4年の評価シートがありますよね、この中の数字を見ていくと、具体的に見えて、良いかなと思うので、ちょっとそれを、ご覧になると良いと思います。評価の仕方の中で、段階とか、自己評価とか、有識者評価というのは、ここに載っているの、これを中のものがこういう形に現実には出てくるんだというような、説明を加えていただくと良いなと思いました。

(事務局) 評価書の11ページ以降に、今説明した尺度などが書いてあります。それで、12ページをご覧いただきますと、各項目の自己評価、有識者評価と、その中項目ごとにまとめて平均点を出した一覧表がついております。具体的な定性評価の本体は、13ページ以降となっております。大項目、次に中項目があり、中項目ごとに、有識者評価の平均点である段階評価が行われています。そのあと、1-1-aというのが小項目に該当します。小項目のところで、主な取組として1-1-aでは調査研究の遂行ということで、各分野でどういう取組が行われたかを記載してあります。主な取組の次に、自己評価ということで、事務局の方で、一旦、段階評価し、その後、有識者意見ということで、皆様からいただいた意見をまとめて記載してあります。その有識者意見の最後のところに、有識者評価ということで、数字が書いてありますけれども、これはいただいた数値の平均値ですので、3.3とかになっています。自己評価はこちらで評価しますので、1から4で評価しますが、有識者評価は、皆様からいただいた、数字を単純に平均し出しています。以下、1-1-b、1-1-cと同じように評価していただきまして、この1-1のaからcまでの有識者評価の平均値を出したものが、13ページの冒頭にある1-1の中項目、この場合ですと、「資料収集及び調査研究とその成果の公表」の段階評価ということになります。以下の項目についても同様に評価をしてあります。以上となります。

(岩野委員) 評価書の12ページに一覧表が出ているわけですが、ここに、自己評価それから有識者評価、段階評価という一覧があるのですが、有識者評価の場合は、1から4までをつけてくださいということになってますけれども、そうすると、全員が4をつけない限りは、4.0ともらうにはなかなか大変であると思うんですね。ですからどの辺にいわゆる評価点を置くと言ったらいいんでしょうかね、3点幾つぐらいが、平均より良い点だろうとした時に、その辺のガイドラインや目安、そういうものもやはり持っていっておいっていただきたいのかなと、4.0というのはなかなかもらえないという中で、3点幾つぐらいが一つ

の別れ道ですかね。これは別に出さなくてもいいことだと思いますけれど、そういうものもあってしかるべきかなって感じはしております。それともう一つは、ちょっと気になったのですが、10人の点数を平均化した時に、小数点以下二桁まで出ることはないのでしょうか。

(事務局) 10人ですので、小数点以下一桁ぐらいまでが妥当かなと。もう少し人数が多ければ、二桁まで出しても良いと思いますが。

(岩野委員) あと段階評価でも平均すると二桁まで出ることはないのでしょうか。

(事務局) 3.0という割とキリの良い数字が出ているのでもわかるように、あまり意味がないのかなと。結構、3.0とかが多いですので、たまたま綺麗になったという可能性もありますけど、人数が少ないので、数学的に考えても一桁かなと。

(岩野委員) 例えば3.1と3.0にどれだけの違いがあるのかという問題はあるんですが、その出し方として、小数点以下二位まで出るのはいいから、いわゆる四捨五入するのか、といった処置を明文化したものがどこかに必要ではないでしょうか。

(事務局) そうですね、出た場合は、四捨五入しています。最初の11ページのところに記載するように、平均化して小数点第二位を四捨五入して、評価したということにしたいと思います。

(岩野委員) 実際に計算をやってみないと、小数点以下第2位まで出るかどうか、はっきりわからないんですが、もし出るようでしたら必要かもしれないです。ご検討いただければと思います。

(事務局) 11ページのところに計算方法を入れるようにしたいと思います。

(岩野委員) 他の委員の皆さんから何か、では大貫英明委員。

(大貫^(英)委員) 例えば、38ページをご覧いただきたいのですが、前々回の委員会の時にですね、定性評価に目標設定がないと、本来、定性評価ができないんじゃないかと、だから、何年度までにはこういう状態にするんだってというような目標設定を挙げて、今年度としてはここまで出来たとかね。確かあの時は、兵庫の「人と自然の博物館」の例を出して、評価書をきちんとそういうふうな作り方にしないと、評価っていうのは、何年にどこまでの状態にするんだってというようなものがないとこれは評価できないだろうと、具体的に言うと例えば、この38ページを見ると、自己評価が2になってますかね。これも自ずとこの中身を見れば、ちょっとね、非常にどうかなと思う状態がある。これ、このままいっちゃうと、今年度っていうのかな、また同じような自己評価

2になっちゃうんじゃないかと。少なくとも、主な取り組みで、2件あって5件あったよ、1件あって1件あったよっていう、こういうような取組で、自己評価で2を出すっていう、こういう状態がいいのかな。やっぱり、学校の中で、今日、小学校の先生もおられるしね、相小研や、相中研の社会科部会、理科部会等の要望があった中では、資料を、授業の中で、使いたいという時に使えることができるんだねっていうことをお約束をいただいた中での博物館づくりをしてきたわけですから、少なくとも、今年は、何とかセットを幾つつくったとか、あるいは何年度までには全校の50%の学校から依頼が来るぐらいのところまでは、目標としては、それぐらいにするんだとか、そういう状態、目標を作っておいて、今年度はここまで出来た、出来なかったのは、そこまでに到達しなかったのはこういう原因があったんだと、この原因は来年度、こういうことをもって克服するんだ、というような形で、自己評価をいただければ、有識者意見の中でもね、努力が認められるとか、或いはもう少し努力を、とかっていう点も付けようもあるのだけれども、このままだと、昨年度、発言した甲斐がないなという気がするので、ぜひそんなところをお願いしたいと。

(岩野委員) 今のご意見について、事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局) 今、具体的な数字を、どんなふうに提示するかっていうのは、ちょっとまた次の宿題にしてさせていただいて、この貸出キットにつきましては、今年度は、教育センターの指導主事の方に貸出キットを使っている様子取材していただいて、各学校の先生にお知らせを出してもらったりしたほか、市内の小学校に出張授業に行っているところを、私もついて行って、その様子を見て、職員ブログか何かに書こうかなと、それ以外でも、その相小研の教科の部会があるんですけども、こここのところやはりコロナなどもあって、なかなかおつき合いが途絶えていたところなんですけれども、今年度、そういった、相小研に取り上げてもらったことなどもあるんですけども、教育センターの指導主事の方とも連携しながら、例えば相小研理科部会とか、相中研社会科部会とか、そういったものの研修を博物館で行ってもらう。そういったことで、身近にこんな資料があるっていうのを少しずつ広めていきたいなという、具体的なところは今、取りかかっているところもあるし、来年やるところもあるんですけども、具体的に何件ぐらいを目標にするかっていうのはちょっと、宿題にさせていただきながらも、そんなふうに取り組んでおりますので、評価をしていただくにあたって、評価しやすいような形で提示できればと思っております。

(岩野委員) 項目で言うと、4-2のbというところですかね、資料貸し出しによる学習支援というところでは、確かに目標設定をすれば、それについての評価はしやすいということもある。ただそれも何もない中だと、これは毎年、同じような形で、数件しかありませんでした、評価2ということにもなりかねないという点でのご指摘で、この辺のところは少し課題だということですが、これは他の中項目あたりも含めてこの特に4番の市関連施設、あと他の施設、この辺のところ、もし目標設定ができそうなところがあるならば、そこももう1回検討の上、決定した上でそこにいかに近づける努力をしたかということでの自己評価をしていただく。この辺は、いわゆる目標設定ができるかどうかも含めてですね、もう少し再検討いただければとありがたいかなと思います。

(事務局) 貸出キットというのは博物館の資料、例えば土器のセットであるとか、昔の道具のセットであるとか、それを学校に貸し出しをして、あるいは、学芸員が出前授業してというような形で使っていたんですけど、博物館の資料ではないんですけど、市民学芸員さんが何年かかけて作った相模原市のかるたがありまして、それを何セットか作ってるんですけど、最近、その貸し出しが非常に伸びておりまして、ですから貸出キットそのものではないんですけど、そういう郷土を知るためのかるたについては、今非常に人気で、何セットも作りました。そういったことも含めた中で、評価ができたらいいのかなと思っております。

(岩野委員) 貸し出しできるキットの一覧とかそういったものはどこかに載っているのでしょうか。

(事務局) 小中学校の先生1人1台にパソコンがありまして、そこに、市の教育委員会からの情報とかが載っているというのがありますが、その中に貸出キットの一覧表と申込用紙というのが、アクセスできるようになっております。そんなところにあるって知らなかったという方も、まだまだいらっしゃると思うので、しっかりとらえてPRをして、活用していただければなと思っております。ただし、貸出キットがここにありますので、ここに借りに来ていただくということになりますから、これをどこか別の場所に置くとか、何か持ち運びの方法に良い方法がないか今後研究したいと思います。あと、悩ましいのは、当然学校のカリキュラムでありますから、皆同じ時期なんですね。ちょうど3年生の学年から、昔の道具を貸してくれっていうのがバーツときて、ちょっとお断りしなきゃいけないところがあったりみたいなこと

がありましたので、そういう季節ものっていうところもありますので、その辺もうまく、うまい塩梅で効果が上げられるよう、課題として検討してまいります。

(大貫^(英)委員) 一生懸命やってるんだらうけど、例えば、糸車が2件だとか、火のしが1件だとか、あるいは「昭和ってすごい」が1件だったとか、こういう数字がね、集中していたから、行かなかったっていう、そういうことの資料にはならないよね。30件とか、40件とかあれば、だから言い訳ではなくてね、何が課題なのか、この課題とこの課題というものをきちんと確認をして、その上でじゃあ来年度はその課題をどういうふうに克服しようとするのかというような、その目標だよ。それを上げてもらえれば、今年は頑張ったんだね、今年はちょっと足りなかったねっていうふうにやり易いということです。

(岩野委員) 具体的にどのような貸し出しの種類があって、それがどのくらいの数量があるか把握できてないので何とも言えないんですが、先ほどの事務局からのお話ですと、いわゆる同じ時期に、確かに同じ項目で、同じような貸出キットを貸してくださいという持ち込みが逆にありすぎて、借りられないっていうこと。

(事務局) 3件ぐらい来て、3件目にちょっとという状況です。

(岩野委員) これを見ると、せいぜい1件か2件、決して多い数字ではない。殺到するぐらいいっぱいあって、しかも数量が少なくてということならば、例えばこれを、次の目標として持ち込みの多いやつは増やすであるとか、何かそういう具体的な取り組み、そういうことは可能だろうと。ただ受け身として来たものだけ、抽選で貸しますよ、というスタンスではなくてね、もう少しちょっとその辺は前向きに、申し込みの多いようなキットは、ちょっと何とか入手してみようかとかっていう努力をすとかですね、何かそういう意味での目標設定ですかね。よろしく検討いただきたいと思います。

(事務局) 補足ですが、これまで評価のあり方を議論する中で、目標設定をどうするかっていうものも当然ながら最初から議論がありまして、例えば定量評価の際に、目標設定して、何パーセント到達したかっていうことを、実際に評価に入れたようなことも初期の頃にあったんですけども、結局、定量評価にそういうものを入れても、先ず目標値が適正かどうかということで、まず外部の判断が必要になってしまいます。残念ながらそういったことを審議する回数を、この協議会の中ではこなせませんので、結局その目標自体の妥当性というものが検討できないのであれば、目標を設定してもしようがないね、ということで、目

標値を外したという経過がございました。今のスケジュール感でいくとなかなか目標を設定するのが難しく、我々もちょっとその辺が悩ましいところですので、今後こういった目標の立て方が妥当なのかということも含めて、もしアイデアがあれば、教えいただきたいと考えています。

(岩野委員) 目標設定というのは、私は何も数値的なこととか、年度的なこととかだけではないと思ってます。ある意味では、定性的な内容と言ったら、例えば来年はもうちょっと申し込みがあるようなものは、どうやったらキットを入手して増やすことができるのかとか、そういう努力とかですね、そういう別の形で出来るもの、場合によっては、出来ないものもあるかもしれないのですが、ただ数を増やすとか、そういうことだけではなく、情報発信をもうちょっと増やすように、どういう努力をするのかとか。いろいろな形での取り込みが可能ではないかなと。必ずしも具体的な数字だけが、目標ではないと私は思っていますので。貸出キットがあるということ、どうやったらもう少しわかってもらえるのか、小学校、中学校にできるだけPRをやってみようとか、インターネットで最近の話題として、こんなキットを当館では持っています。使ってくださいとか、もっと発信しようとか、いろんな考え、取組ができるのではないかなと。それが一つの目標になって、それについてどこまでできたのかを評価すれば良いのではと。

(岩野委員) この件に関しては、これでよろしいでしょうか。このことについてお話ししたいという方はいらっしゃいますでしょうか。

(岩野委員) では、そういうことで、ぜひ、よろしく検討していただければと思います。あとこの議題の3番、この評価書について、皆さんの方からありますか。

(関委員) 初歩的な確認をさせていただきたいのですけれども、7月の段階で評価を書かなきゃいけないその時に、その評価のもとになるのは、新しくできるこの年報というものと、例えば、この評価の中で、そちらの自己評価の部分だけが書いてあって、有識者の意見とか評価が書いてないものが送られてくるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) そのとおりです。今お手元にある黄色い表紙の冊子が令和4年度の年報ですので、令和5年度の年報を作って、それを皆さんに送付いたします。ご質問にあったとおり、主な取り組みと、アンケートからの市民の意見、自己評価の数値を入れたもの、有識者意見と有識者評価を抜いた段階のものを、皆様に送付いたしますので、そちらを受けて評価をいただければと思っております。

(関委員) 私の評価の資料というのは、これ(年報)とこれ(評価書)ということになりますね。

(事務局) そうなります。もし博物館にいらっしゃる機会がございましたら、展示の様子などもご覧いただきたいと思います。どうしても年報だけですと、数値だけで雰囲気なかなか伝わりませんので、可能であれば事業をご覧いただき、評価の基準としていただければなと思っております。

(関委員) 評価は、自宅でというか、こちらに来てやるわけではないんですね。

(事務局) はい。こちらからこのフォーマットを送りますので、ちょっとどんなファイル形式になるか決めてませんが、大体、去年まではワードのファイルを送って、そこにご記入いただいて、送り返していただく形をとっています。項目に対する意見と数字がわかればいいのかと思ってますけども、今のところワードのファイルを送って空欄にご記入いただくことを考えています。

(関委員) とても量が多そうに感じるんですけども、実際にやられている方はどのぐらいの期間でやられているんですかね。

(岩野委員) これも人それぞれだと思うんですが、例えば、吉川委員の方から、どのぐらいの時間がかかりそうですか。

(吉川委員) 時間がかかります。結構。3回くらい読みますね。やはり中身がわからないと評価できなくて、わからない所は、わかりませんと意見を書きました。自分で、少しわかるところは書くということで、わからない所はわからないとしてやってきました。ただ、単年度評価になったので、見やすいですよ。自分が任期じゃなかった頃のものがバナーと来て、ワーッと話されたときは、一番最初の一期目の時は、何を聞いているのかわからなくて、やっと少しわかるようになって、評価の基準も単年度になったので、任期中のことが理解できていれば評価できるかなと、評価しやすい形にはなったかなと、これは私の感想です。皆さんどうかわかりませんが、私はずっと専業主婦でできますから、こういう書類を読むっていうことに関しては不得手なので、ちょっと時間がかかりました。読んでいけば少しは、普通の社会生活していればわかる範囲かなと思って、いいだろうと思って度胸があって書きましたけど、わからない所は、わからないということにしてやってきました。

(岩野委員) もう一方ぐらい、どなたか経験された委員の方からコメントをいただければと思いますが、浜田委員いかがですか。

(浜田委員) 私の場合はですね、年度ごとのこの資料は、一応やっぱり全部読みます。2、3日かかりますけれども、一応読んで、その上で、評価書には、パソコンで記入するんですけど、記入自体は多分、数時間かなと思いますけれども、ですから読んで理解するのにちょっと人によって差があるかなという印象を持っています。あとやっぱり、時々博物館に見学に来たりして、実際の様子を肌で感じてっていうふうな、より実態的な評価っていうのは可能になるかなと思います。

(事務局) 評価については、館に来ていただくことが一番いいかなと思いますけれども、なかなか来られないということもあるかと思しますので、日頃からチラシであるとか、案内であるとか、そういったものを作る度にお送りするようにしておりますので、それで日頃の活動の様子を感じていただけるとありがたいなと思います。

(岩野委員) この評価書については、今期から初めて委員をされた4人は不安があるかもしれないと思っていますので、何か分量も多そうだし、いっぱい何か意見まで求められるっていう、これは大変そうだというふうに感じられるのも、ごもったもな話だなと私は思いますけれども、1回、流れに乗ってしまえば、確かに書いたりする手間はありますけれども、そんなには負担にならずにやっていただけるものではないかなと信じますので、まず1回ちょっと今年、やっていただくということでそのためにはできるだけ、日頃からの博物館に来ていただいたり、いろいろな配布物とかが、来るとしますので、そういうもので少し評価の材料と、いうことぐらいで大丈夫だろうと、あんまりこう、大上段に構えてやらなくても大丈夫かなと、気楽に普段どおりに評価していただければ、そんなにご負担なくやっていただけるものではないかなと思っています。いきなりメールがドーンといっぱい来てこれについて評価しろと、来ると、最初は確かに、初めての場合はたじろぐと思います。量が多いという点でね。ですから、吉川委員も言われていたように、2回、場合によっては3回ぐらい読まないといけないかもしれない。それでも読んでいただければ内容は少しずつ理解できるので、それについて自己評価したものについて、委員として、有識者評価は何点ぐらい必要かというのが、少しずつ見えてくるかなと思いますので、そんなに固く考えないで、取り組んでいただければありがたいなと。

(大貫^(英)委員) いっそのこと減らしたらいいんじゃない。評価は、学校でもそうだと思うけど、役所でもそうだけど、いわゆる現場を疲弊させるだけの事務ですよ。こんなことに、無駄な時間を使わずに、委員の方も2

日も3日かけなきゃ読み取れないようなものをやるっていう意味があるかどうかですね。もったきちんと今までやってきた中で、低かった部分、今年度はこうやるんだみたいなね、そういうふうにもっと絞ったほうがいいと思うんですよ。私も博物館にいたからわかるけど、そんなにいっぱいね書かされる方も書かされる方だけど、書く方も書く方、もっとやることいっぱいあるんだから、そんなところが、私の意見。

(岩野委員) という意見もあったということで、これも大事なことだと思います。ある意味で私たちの代弁もしていただいている。

(事務局) 評価書の方に主な取り組みがたくさん書いてありますけど、これは基本的に年報をご覧いただければ済むんですけど、一応これ単体で公表しなきゃいけないので、年報何ページ参照と書くと不都合があり、この評価書だけで完結した内容ということで、項目がダブッと書いてありますけど、基本的に、年報から抽出してますので、年報を読んで、自己評価の数値とアンケートを見れば、皆さんの評価はできるようになってはいるんですけども、年報何ページ参照みたいなことを書くという案も最初出たんですけども、先ほど申し上げたように、これ単体で評価書として、公開されますので、これだけで完結しないとまずいということで、主な取組は全部書くようにしました。もう1点、項目数なんですけれども、項目数をふやした理由としては、数値評価を直感的に数値でパッパッパッとできる、評価してもらうには、項目を分けた方が点数がつけやすいだろうということで、項目をふやしたという経緯がございます。

(吉川委員) やっぱり項目の中で、年報を見ながら、どれだったのかなって確かめながら書く作業もやっぱり、ちょっと私にはあったので、ちょっとこの部分、なかなか書けなかったのは、もう1回そこを追ってみながら、それでやっていくというふうな作業をしたので、時間がかかりました。見直しながら面白いなと思いながらやっていました。年報を開かないとわからないので、3日間ぐらいかかりました。

(岩野委員) 私個人の意見としては、比較的この文書はボリュームがあっても、いわゆる箇条書き的な文章なので、読んでいけば、割とすんなり頭に入りやすい。一つずつ、括弧ごとにやっつけていけば、負担なくいけたかなと。時間は確かにかかりましたけれど、数は多いので、内容的には決して難しくなくわかりやすい文章でもあるので、負担なく評価できるのではないかなと思っております。

(岩野委員) 何か他にありますか。

(岩野委員) 私の方からちょっと、この、この議題の最後にちょっとお伝えしたいと思いますが、昨年単年度になって、この令和5年度にこの評価ができた。私たち有識者意見ということで、箇条的にいろいろな方からこう羅列されています。私は自分で書いていた時に、ふと思ったんですね、大事なことは、これがどこまで反映されるのかなど、書いて終わりになって欲しくないな、ということですね。評価書というのはやっぱり博物館活動が、より前進するためのものという大前提がある。こういうものをいかに事務局の皆さんがちゃんと酌み取って、例えば10の項目の中、その内、1件でも2件でも、それが次へ反映された、それが評価が進む、数値が上がっていくということだと思ってるんですね。ですから、このまま評価書だけ完成して終わりということではなくて、こういうものを何回もこの有識者意見を皆さん方でよく読んで、場合によっては遂行して、次へこれがより具現化できるような項目だったらそれを取り組む、それが評価が上がること、自己評価、あるいは有識者評価が上がることだろう。ここで述べたことが毎年、毎年同じように出てくるようではあまりよろしくない。場合によっては当然そういうものもありますけれど、そういう努力をぜひしていただきたいなと思います。そういう中で、目標設定の話に戻っちゃうんですが、有識者意見の中で、38ページの上から4つめのところですかね、先生方があまり利用されていないのにはどんな理由があるのか、ホームページから貸し出し方法が調べられるのかという項目を出されている方がいるわけです。ということは、ホームページから本当に貸し出し方法がわかっているのかという疑問を感じた意見だろうと思うんですね。だとしたらじゃあこれをもう少し、貸出の情報は出していますよということだったら、よりもうちょっとわかりやすく、もっと発信力を強くするにはどうするか、やっぱり、すぐつなげられることがここに出てるんだなと私は思うんですね。一つの例としてそうですけど、こういう貴重な意見がいっぱい出てははずです。私も読んで、私以外にもいろいろな方から、確かに10人の方の意見は貴重だなと感じました。それをどこまでこれから反映させていくかというのが一番大事な話、一つでも二つでも、より実現可能なものにしていく、あるいは努力をしていく。それが本当に博物館活動がより良いものになっていくはずだと思います。この有識者意見をどのように、この中から、より来年度は、何か具体的になりそうなものをピックアップしたっていいと思いますし、いろんな方法があると思う。そういうことを少しでもやるというふうをお願いをしたい。

(事務局) それは私たちも、ご指摘いただいたことをどのように反映したのかというのを、前回の評価書まではそういう項目がなかったんですけども、今回のこの活動評価書からは、この5ページになりますけれども、令和3年度の活動評価において指摘された事項について、こんなふうに取り組みましたっていうことを特出しで、一番最初に、書くようにいたしましたので、もちろん今回、4年度にご指摘いただいたものについてはこんなふうに取り組みましたっていうことを、この5年度の評価の時には、総括という形でご報告させていただきたいなと思っております。また、今ご指摘がありました貸出キットを、学校の先生にもっと知ってもらうにはということについては、大貫(努)委員からもアドバイスいただけたらなと思っております。

(大貫(努)委員) 前学習指導員の先生がいらっしゃったときに、こういうのがありますよっていうことだったんで、私もそれを受けて、少しそのeネットさがみのほうで発信したり、自分の学校でも、そういうものを扱う学年ですね、1年生の糸車とか、あと、6年生の縄文体験キットとか、そういうのは、紹介しますけど、なんて言うんだらうか、ちょっと教員も余裕がないという部分はどうしてもありますね。ただ、やっぱりまだ知らない教員がいるっていうのも確かなので、やはりその辺の宣伝、周知をもう少し学校の方でも博物館と連携していけば面白そうだなと思って、借りる教員も増えてくるかなと思っております。

(事務局) 5ページのご指摘されたところの③というところが、まさに学校との連携や学習支援に不可欠である博物館と学校をつなぐコーディネーターが必要というふうなお話があるんですけど、それに対しての取り組みということでその③のところ、先ほど教育センターの指導主事の話をしてしまいましたが、そのほか、市立の小中学校の校長会の中のグループ、校外学習を担当している方の中に、博物館の担当者を誰か決めてもらうっていうのをお願いしまして、実はそれが、大貫(努)委員ということでございまして、この博物館自体のことや、博物館協議会みたいなことを、学校の校長先生たちの方にもお伝えしてもらいやすくなるのかなというふうに期待しているところです。

(岩野委員) 博物館の方もいろいろ少しずつではあるけれども努力をしているということで、他の委員の方々から、この議題について、何か他にございますでしょうか。特にないようでしたら、次に進めさせていただきたいと思っております。

(岩野委員) 続きまして、議題の4、今後の予定について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(4) 今後の予定について、事務局より説明をおこなった。

(岩野委員) ただいま今後の予定ということで、令和5年度、そして来年度にあたる令和6年度の予定。それと、資料収集、調査研究の実績、それから来年度の計画等についてご説明いただいたというところですが、これについて何か皆様方から質疑等ありましたらお願いしたい。

(大貫^(英)委員) 去年、話をしたことだけど、博物館はコレクション化を図って体系的な資料を形成するための資料を収集しているというところが大前提なはずなのだけれども、不幸なことに、具体的な例を挙げていいかわからないけど、民俗だとか、歴史だとか、考古というのは、体系的な資料の収集の状況にないんだよね。これは、例えば、考古であればね、弥生とか古墳の前期とか、足りないものがあるわけだから、これをきちんと、発掘調査をしてね、資料収集するんだとか、あるいは民俗であれば、今までの中の、いわゆる伝承資料のきちんとした整理ができていないので、そういった、本来の民俗伝承という部分でね、そういったものを資料整理するとか、あるいは歴史であればね、残念なことに、大正昭和、あるいは平成もね、すでに歴史化される時代になっているわけなので、そういったものをきちんと体系的に資料収集していかないと、なくなってしまうんでね、ぜひそれは、ちょうど今年度やるっていうことですから、ぜひこれは進めていただきたいということと、考古資料は、埋蔵文化財センター構想があって、実施計画の中にもきちんと載って、磯野台小学校が廃校になったところに、埋文センターの前段として展示室を作って収蔵するっていう、将来的には、行政調査で得た資料は、文化財保護行政でやるんだと、博物館はあくまで、相模原の文化あるいは歴史、そういったものを叙述するための資料を体系的に収集し、それを保存するっていう考え方があったんだけど、何かこれ見ると、6年度の計画5年度の実績を見ても、文化財保護課や民間調査会社が発掘した遺跡の、出土品について受け入れって書いてあるけど、このままで行っちゃうと、どうするんですか、このところが今どうなっているのか。

(事務局) これも市の中の話で恐縮なんですけど、一応過去の市長決裁という手続きの中で、現在は博物館が最終保存場所だというふうになっておりまして、ただ当然我々としても、今後増え続ける考古資料に対して対応をとらなきゃいけないと考えておりまして、昨年ぐらいから、具体的には廃校になった小学校であるとか、そういったところを収蔵庫として活用できないかということで、市の未利用資産の担当課と協議

を進めているところです。ただ収蔵庫として利用するっていうことに対して、抵抗があったりして、なかなかまとまった面積を収蔵庫として確保するっていう話が進まない状況ではございますが、引き続きですね、いくつか、収蔵庫の候補として挙げられてるところがございませので、こちらについても、調整をしています。また、未利用資産だけではなく、場合によっては、どこかにプレハブを建てるであるとか、あるいは民間倉庫含めて検討させていただいております。実際県内の市町村の中にはですね、民間の倉庫を活用しているような事例もございまして、そういった事例も参考にしながらですね、当館の収蔵庫の問題っていうのも、あまり先送りできない問題ではありますので、なるべく早急に方針なり、目途をつけたいなという状況であります。

(大貫^(英)委員) 私が言いたかったのは、いわゆる行政発掘、道路をつくるから団地を作るから、あるいは区画整理をするから、それで発掘調査をする、これは行政発掘であって、いわゆる行政行為としてやっている。それで、遺跡を壊しちゃう。その代わりに記録と遺物だけは残しますよっていうこれは行政行為。博物館は、その行政行為の補完の機関ではない。博物館は、郷土の資料、地域の資料を調査研究し、市民が、その自分たちのこの地域を作る一つのデータとして、市民が使えるデータをきちんと集めて、それを後世に保存していくと、そういうような役割を持っていて全く異質のものである。異質なのに、埋蔵文化財センターのできるまでの期間の暫定的な措置として、一部報告書ができたものぐらひは引き取りましょうよっていうようなことでやってきたんだけど、ここで考えている基本的な方針を決定していくみたいなのが書いてあるから、そこのところだけは、ぜひね資料収集方針の案を作ったり、あるいは新規収蔵庫を庁内調整するということがあるとするれば、そこはきちんとやっていかないと、教育行政が、いわゆる一般行政の下請けではないんであって、そこが少なくとも、博物館をつくる時には、庁内合意を得られていたし、あるいは埋蔵文化財センターはきちんと作るんですよ、収蔵庫をきちんと作りますよっていうことで、これも庁内合意が得られていた。そこのところを踏まえて、きちんとした方が、これは、そういった行政行為の下請けをやっていたんじゃないけど、博物館本来の役割ができなくなっちゃうんでね、市民に対して失礼ですよ。そこのところだけはきちんと、庁内調整はとっていただきたいというふうに思ってます。

(岩野委員) 他に何かございますでしょうか。

(浜田委員) 私は今の大貫英明委員の意見と同感で、考古の資料に関しては恐ら

くですね、行政発掘資料と学術発掘資料は、分けてやっぱり考えるべきかなというふうに思います。先ほど説明の中でこれからコレクションポリシーというか収集方針をしっかりと作っていくということで期待したいと思うんですが、今日いただいた資料を見ると場合、歴史分野とか、民俗分野の収集方針が、ちょっとあまりないのかなと見受けられます。もう少しですね中長期的な視点で、この博物館の特徴をどうするのかというのを、はっきりしていただけるといいかなと思っております。例えば、相模原の場合、やはり戦後、急速に都市化した町ですので、やはり都市化の中の、民俗の変化ですとか、歴史的な移り変わりをどう記録していくのかっていうのは、多分、相模原には重要な課題かなと思っていますので、例えば、今、昔のくらし展とか、小学生向けにやっていますが、相変わらず昭和の時代の展示が目立つんですけれども、やはりこれからは平成とか、令和の資料を視野に入れながら、ちょっと集めていかなきゃいけないと思いますので、ぜひ考えていただければと思います。これは意見です。

(岩野委員) 他にはございますでしょうか。

(岩野委員) 一つだけ確認させていただきのですが、来年度、事業予定の中に、いわゆる工事関係、最初の館長のお話の中で、今は休館中であると、エレベーター、空調をやってるんで、来年度も工事をやると、そうすると来年度、先ほどの予定を見ると、プラネタリウムが1月からですか、そして、エレベーターの1号機が、これも12月から、そうすると休館はしないで工事だけできる、それともまた今年度のように休館になるのか、ちょっとその辺が私の中でははっきりしなかった。工事と休館との関係について、ご説明をもうちょっといただければありがたいなど。

(事務局) 基本的には休館はしないということで考えております。ただし、エレベーターの工事が12月から始まるということがあり、プラネタリウムのすぐ横の工事になりますので、当然騒音等も発生します。また、プラネタリウムの工事自体も1月からになりますので、12月からはプラネタリウムの方も休映とさせていただきます。イメージとしては、プラネタリウム側のエントランスに工事の囲いを作ってしまうと、一応、常設展示室（自然・歴史展示室）側には人が行けるような形ですが、天文展示室も入れないので、部分休館みたいな形になります。全体としての休館というのはございません。

(岩野委員) 今の説明で、とてもわかりました。プラネタリウムと天文関係の方は、ちょっと入ることができない状態ですね。

(事務局) 補足で申し上げますと、プラネタリウム休映中はですね、モバイルプラネタリウムといって移動式のプラネタリウムがあるんですけども、そちらを設置をいたしまして、当然、今の定員ほどお客さんは入れないんですけども、それで対応させていただきたいなというふうに考えております。

(岩野委員) 可動式プラネタリウム設置、これのことですね。

(事務局) 特別展示室の方に設置します。

(岩野委員) ありがとうございます。他に何か。

(大谷委員) 先ほど一番最初のご説明のときに、銀河アリーナと博物館セットで、小学生が見学に来るっていうお話を聞いたんですけども、スケート教室は秋ぐらいからかと思いますが、プラネタリウムが休映中っていうのは、モバイルプラネタリウムの方で対応ということになるんですかね。別に休映中でも対象の子供たちがプラネタリウムを見れませんか。別にはないということでしょうか。

(事務局) なるべく11月中に見学していただくように調整していますが、休映中になる場合は、モバイルプラネタリウムは50人程度が入れるものなので、いままでのように、一学年が一度に、たっぷり1時間程度番組を見るというところまではいかないんですけど、1クラスずつ見るのであれば、今の学校は10クラスもないので、1クラスが見ている間は他のクラスは、展示を見ていただくとか、という様な形で運用していくのかなというのを、大貫(努)委員と話をしているところです。

(岩野委員) ちなみに可動式というのは何人ぐらいは入れそうですか。

(事務局) 50人くらいと聞いております。1クラスずつ見るのであれば、今、児童50人以下の学校とか、結構あると思うんですけど、2クラス、3クラスぐらいのところは主流じゃないかと思うので、2回転、3回転ぐらいで見ていただけるのかなと。

(岩野委員) 確かにそういう物理的な問題、あと時期的な問題っていうのは、これから出てくる。来年度ですね、出てくる。それでも一時期は工事で、ちょっと大変な時期はあると思うんですが、それが終わって、新しいプラネタリウムができ上がれば、また本当にそれこそ世界に誇れるようなものだろうと思いますので、大いにまた活用していただけるんじゃないかなと願っております。

(岩野委員) 他にございますでしょうか。ちょっと時間が大分、今日は過ぎてしまっていて、申し訳なかったんですが、まだもう一つだけ最後にちょっと議題があって、議題の5のその他ということで、これについて、何か

事務局の方から連絡事項等ございますでしょうか。

(5) その他として、事務局より津久井地域の博物館所管施設の視察について、ご案内をおこなった。

(岩野委員) ありがとうございました。委員の皆様の方から何か連絡事項等がありましたらと思いますが、いかがでしょう。なければそれではここで議事を終了させていただきます。進行を事務局の方にお返しいたします。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大貫 努	市立当麻田小学校校長		出席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		出席
4	大谷 春枝	市P T A連絡協議会書記		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長		欠席
9	関 明	公募委員		出席
10	根岸 恵	公募委員		欠席